

1. 最低賃金 180ドルで交渉へ カンボジア労組、政府案と隔たり

カンボジアで来年初めから適用される縫製業への法定最低賃金をめぐり、主要 17 の労働組合が交渉の軸となる金額を月 179.6 米ドル(約1万 8,600 円)に決定したことが明らかになった。現在に比べて 28.6%増える計算だ。生活コストの上昇や経済状況を踏まえた金額で、労組間の事前協議で提案額がまとまったのは初めてとなる。一方、政府は月約 160 米ドルで調整を進める考えで、交渉は難航しそうだ。

2. 雇用主は 144 ドルを提案、最低賃金の交渉で

9/07、カンボジアの雇用主団体は、来年1月から適用される縫製業への法定最低賃金の交渉額を月 144.20 米ドル(約1万 4,600 円)に設定したことを明らかにした。労組側が要求する月 179.6 米ドルを大きく下回っている。9日から始まる労使双方と労働省の協議を前に、カンボジア縫製協会(GMAC)がイト・サムヘン労働相に提示した。現在適用されている最低賃金は月 140 米ドルで、4.2 米ドルの上昇にとどまった。下請け単価の下落や労働者の生産性の低下、閉鎖工場の増加などにより、大きな賃上げはできないと主張している。縫製業の最低賃金は過去3年で大幅に引き上げられている。ただ、労組側は依然として生活コストには見合わないと言っている。要求が通らなかった場合、ストライキを実施する構えをみせている。

3. 工場閉鎖の労働者保護、政府が新規則制定へ

労働省は、突然の工場閉鎖などで失職した労働者を救済するため、金銭的な支援などを盛り込んだ新たな規則の制定を検討している。イト・サムヘン労働相は、経営者が事前通告もなく工場を閉鎖し、賃金を支払わない事例が報告されている現状に言及。「未払い賃金を回収するには法的な手段も必要となり、時間も手間もかかる。これらの状況を改善するため、政府は法的な枠組みを構築して労働者を保護することにした」と説明している。ただ新たな規則の内容や具体的な適用範囲などは現時点で不明。さらにサムヘン労働相率いる労働省の認識が、これまでも労働者の現状と隔りがあったため、関係者の間では新規則の効果が疑問を投げかける声が高まっている。

4. 救国党党首代行に禁錮5 カ月、裁判所が判決

9/09、カンボジアのプノンペン地方裁判所は、数回の出廷要請に応じなかったとして、野党・救国党のケム・ソカ党首代行に対し、禁錮5カ月、罰金約 200 米ドル(約2万円)の有罪判決を言い渡した。2017 年の統一地方選、18 年の総選挙を前に政治対立に拍車がかかりそうだ。

5. カンダル州で縫製業労働者を乗せたトラックが事故

7/18、カンダル州では土曜日、縫製業労働者を乗せたトラックが事故を起こして、半数以上が怪我をした。Stung 地区の警察官 Yong Kong さんは、「怪我したうち 4 人は Preah Kossamak 病院に運ばれて治療を受けました。また、トラックを運転していた Ourn Sambat さん 21 歳は、不注意運転で罪になりますが、そこまで深刻な事故ではありませんでした」と話す。また、クラチェ州では、ベトナムからプノンペンの Hak Mail Da 社に接着剤を運んでいたトラックが事故を起こして、炎上してドライバーがなくなった。地区警察の Keo Vy さんは、「会社がすでに遺族にたいして保障金を支払っています。道路の修復にも支払う必要があるでしょう」と話した。

6. コンボンチャム州で縫製労働者の送迎トラック、またも事故

8/09、縫製工場に勤める女性が、トラックに轢かれて死亡した。トラックはコンボンチャムの Rolea Bajer 地区で同じく縫製労働者を乗せて走行しており、乗っていた乗客のうち 13 人が怪我をした。事故が起きたのは朝早く。国道 5 号線で、35 歳の Khoun Vanny さんは、夫の運転するバイクで職場に向かっていたが、途中でバイクが故障したため、道路脇で夫が修理するのを待っていた。現地の検察官 Tim Chanthy さんによると、その時にスピードを出しすぎてコントロールを失っていたトラックが彼女に突っ込んだという。Vanny さんを轢いたあとトラックは近くの家にぶつかりようやく止まったが、ドライバーは逃走した。「トラックはかなり古く、トランスミッションも壊れていました。ドライバーが免許を持っていたのかどうかはわかりませんが、警察は彼を逮捕する予定です」と Tim さんは話をした。

縫製業労働者を乗せて走るトラックは現在 180 台以上あり、警察が抜き打ち検査をしたところそのうちの半数が免許をもっていなかった。今年初め、政府は免許を保持していないドライバーをより厳しく取り締まる、と発表しており、それに先駆けて、ドライバーたちに道路の安全訓練等をしてきた。事故をうけて、社会保障基金は、Vanny さんの家族には 400

万里エル(約 1000ドル)を葬式費用として支払い、また、怪我をした 13 人の治療費を補償することを発表した。またコンボンチュナムの自由労働組合は、事故に巻き込まれたのが全員 M&V International Manufacturing 工場であることを発表した。縫製労働者たちの交通手段が、これまで業界の株主たちからほとんど注目を浴びていなかった、という事実がある一方で、人権団体 Solidarity Center の William Conklin 氏は、「政府は徐々に注意を向けはじめています」と話した。「これは、重要なのに何年も放っとかれていた問題です。労働者たちの存在は労働力以上の何ものではなく、代用のきく使い捨て品のように扱われてきました。政府は、車両に適切な速度を守らせること、停留所をもっと作ること、事故の多発する地域をマップで見えるようにすることなど、今後進めていくべきだと思います」と話した。

また、スバイリエンでも、月曜日に縫製労働者を乗せたトラックが他の車と衝突し、12 人の乗客が怪我をしている。州警察の Och Saren さんは、「ドライバーは 52 歳の Nuon Mol さんだったと特定しています。彼は別のトラックを追い越そうとして事故を起こしました」と話した。

7. カンダル州の縫製工場で 80 人倒れる

7/19、カンダル州 Ang Snoul 地区にある Grand East 縫製工場で、約 80 人の労働者が意識を失い倒れる事態があった。彼女たちは、同僚である Hor Seng Houng さんがまず息苦しさを感じて、倒れる様子を見て、その後同じようにみんな倒れていったという。「どうしてかはわかりませんが、彼女を見てみんな突然疲労が襲ってくるのを感じ、倒れていきました。ほとんどは現地のヘルスケアセンターに運ばれていきました」と Cambodian Youth Power Union League (CYPUL) のディレクター Seang Rithy さんは話した。最初に倒れた Houng さんは容体が重く、プノンペンの Preah Kossamak 病院まで運ばれたという。

8. カンダル州でまた大量失神者

7/22、カンダル州の Grand East 縫製工場で先日 80 名の労働者が失神したのに続き、3 日後である昨日も大勢が失神する事態があった。Cambodian Youth Power Union League の Sean Rithy 氏は、「倒れたのは、3 日前に倒れたのと同じ人たちです」と話した。彼女たちの仕事への恐れが、倒れた原因となったのでは、と予想する。「明確な理由はわかっていませんが、”工場へ行きたくない”、という感情的なものが原因だったと考えています」と話した、また、タケオ州の Garbotex 縫製工場でも昨日、50 名ほどが失神した。これについて地区警察は、フロアの扉が閉まっていたため換気が不十分だったのでは、と話した。

9. コンボンチャム州、縫製労働者 49 人が倒れる

8/01、コンボンチャムの Ly Chiang 工場に勤める縫製業労働者 49 人が、近くの農園で散布された殺虫剤が原因で倒れたと、National Social Security Fund が Facebook で明らかにした。朝の 7 時半ごろから、労働者たちは頭痛を感じ始め、息苦しくなり、力が入らなくなると訴え、次々と倒れていったという。39 人は軽症、10 人は重症の状態で、Batheay Refeel 病院に運ばれた。NSSF は工場に対して、事態を調査して今後の対策を考えるようにと指示を出した。病院の Touch Huot 院長は、運ばれてきた全員が、午後 4 時には帰宅していったと話す。「吐き気を抑える薬を処方しました。特に状態の悪かった人たちには、点滴を受けてもらいました」と話す。工場からのコメントはまだない。

10. 縫製工場労働者、工場で夜通し見張り

7/26、首都の Chung Fai ニットウェア工場に勤める約 100 人が、工場の前でデモを行い、未払い賃金の問題について裁判所の介入を求めた。「オーナーが最後に給料をくれたのは 5 月です。それ以降は姿を消してしまい、私たちは工場の設備を持って行かれないようにするためずっと見張っていました」と労働者代表の Choun Kiri さんが話す。「この設備を売って私たちの給料にしてほしいと思っています。だから朝から夜まで工場に来て監視をしています。でも、夜ここに泊まることは実際危ないことなのでもうやめたいです」と話す。Workers' Movement Union の Pay Sina さんは、「オーナーは逃げた後すぐに工場を倒産させており、だから労働者に賃金を支払う法的責任はないのです」と話した。Kiri さんは「裁判所に今週 2 回行きましたが、いまだ解決する手段を考える、と言ってくれています」と話した。

11. 未払い賃金を求め、フンセン首相にデモで呼びかけ

8/08、TChung Fai ニットウェア工場が倒産し、働いていた 100 人以上が、国道 2 合繊に集まりフンセン首相の助けを求めた。彼らはカンダル州の道路を歩き、まだ払われていない給与があるとデモ行進を行った。労働者の代表、Choun Kiti さんは、「賃金を払わないまま、オーナーがいなくなりました。どうか首相が私たちを助けてくれるように願っています」と話した。先月の下旬も、労働者たちはプノンペン裁判所を囲んでデモを行っていた。オーナーが勝手に工場の設備を売らないように裁判所が差し押さえをすること、また、もしすでに売られている場合はそのお金を全

て未払い賃金にあてるようにすること、などを要求した。裁判所は、その要求の通りに動いているようだ。Chung Fai ニットウェアの統括チーフ Chean Socheat さんは、「オーナーは勝手にいなくなって、連絡も取れなくなっていました。話もできないので解決が難しいです」と話しをした。また別の場所で、プノンペンの Chhang Voy 工場に勤める 200 人以上の縫製労働者が、デモ活動を行った。彼らは、工場が場所を移す準備を行っているにもかかわらずまだ未払いの賃金があると、主張している。

12. サムランシー党首に“発言取り消せ”の声

8/02、縫製業労働者たちがランチタイムを利用したデモ活動を行い、カンボジア救国党のサムランシー党首に対して、ヨーロッパの議会で行った発言を取り消してほしい、と求めた。2 週間前サムランシー党首は EU の人権委員会において、「カンボジア政府に人権を守らせるために、外交はあまり意味のあるものではないので、その代わりに、衣料品の輸出量を減らして抑圧をかけてはどうか」といった提案をしていた。この発言に対して怒りを覚えた労働組合 3 団体が協力し、今回の広範囲デモを打ち上げたのだ。「ランシー党首が、そういう発言をしていないととぼけても、私たちは信じません」と、National Trade Union Coalition (NTUC) の代表 Far Sally さんは話した。「これは決して政治的な抗議ではありません」と付け加えた。Sally さんは、「このキャンペーンは 7 月 28 日から 8 月 3 日まで、15 社の工場それぞれに勤める、合計 1000 人以上の労働者が参加します。ランチタイムを使って、“生きるために仕事が必要だ”、“サムランシーさん、発言を取り消してください”、など書いたバナーを掲げてもらいます」と話した。

13. 縫製業の最低賃金交渉、他産業も参加

7/27、労働組合、雇用者、政府関係者が、初めて、縫製業における最低賃金交渉に向けた会合を行ったが、それに対して、縫製業以外の労働団体や圧力団体も、今後の話し合いのプロセスに参加させてほしい、と主張している。会合はプノンペンのサンウェイホテルで行われた。そこには建設や食品、観光、製造業など様々な分野から代表者たちが集まって、最低賃金を国として定めるべきだという意見から、また、セクターごとに分けて決めていくべきだ、など、国レベルで最低賃金を定めるための、様々なアプローチ方法が検討された。人権団体 Solidarity Center のディレクター William Conklin 氏は、「会合では、縫製以外の業界に携わっている人々の、圧迫した雰囲気を感じました。皆、今後の最低賃金に対するそれぞれの意見を主張するために来たのです。長く待てば待つほど、意見が取り入れられる可能性は薄くなりますから。しかし、今回の会合で特に具体的に決まったことはありませんでした。それでもカンボジアは、ILO 協約の第 131 号を批准するべきという合意はあったようです」と話した。

ベトナムでは 5 年以上の協議を経て、現在、地域ごとに区別された 4 種類の最低賃金が適用されている。また、タイとマレーシアにも、国の最低賃金制度がある。カンボジア労働法第 104 条で、「賃金は、保障された最低賃金と少なくとも同額でなければならない。すなわち賃金は、人間の尊厳を持った適切な生活水準をすべての労働者に確保するものでなければならない」と定めている。カンボジアには、最低賃金制度を確立するための正式な会議は存在していない。しかし労務省のスポークスマン Heng Sour 氏は 2 月、「まだ話し合いはこれからですが、縫製セクター以外にも、最低賃金を設定する可能性があります」と話した。Sour 氏は、「まずは、縫製業の最低賃金を定めることを第一に考えています。縫製業は最も多くの労働者を雇用しているからです。カンボジアは自由経済なので、縫製業の最低賃金が上がれば、自然と他の業界の賃金にも影響するでしょう」と話した。

Sour 氏は、社会保障基金のデータによれば、建設業で働く人達はすでに、縫製業よりも多い賃金をもらっているという。Cambodian Tourism and Service Workers Federation 代表の Morm Rithy さんは、「すべての分野の労働に対して、早く最低賃金を決めてほしいと思っています」と話した。「これから 2017 年中旬まで、私たちは観光業における適切な最低賃金をリサーチしていきたいと思います。もしそれ以上時間をかけるようなら、雇用者が私たちの労働を搾取する時間が増えるだけです」と話した。また、Building and Wood Workers Trade Union Federation of Cambodia の代表 Sok Kin 氏は、「リサーチや証拠が不足しているからといって賃金をこのまま自由しておくのは、おかしいと思います」と話す。また、人権団体 Central 代表の Moeun Tola 氏も、「もし国の最低賃金が適切なものになれば、今タイやマレーシアに大量に出て行っている労働者たちを、国内にとどまらせることができます」と話した。

市内では、労働諮問委員会が今年の縫製業最低賃金話し合いをスタートさせる意味で第一回目の会合を行った。現段階では 140 ドルからの話し合いとなっているようだ。会合のなかで、16 人のメンバーからなる技術委員会の立ち上げについても話し合われた。メンバーには、政府と雇用者と労働組合からそれぞれ選ばれ、社会的経済的な要因を助言していくことになる。

14. 労働組合、生活賃金についてミーティング

8/05、来年の縫製業の最低賃金について労働組合側の意見をまとめるため、労働組合が集まって、労働者たちの

現在の生活賃金について討論した。過去 2 年間主張してきたのと同額をベースに話し合いが行われたが、最終的にはより高い金額で三者会談に臨むと思われる。Collective Union of Movement of Workers 代表の Pav Sina さんは、労働者たちは平均にして、月に 124 ドルを生活費として使い、さらに 47 ドルを実家に送金していると報告。インフレ率が 3 パーセントであることを考えると、労働者の平均の出費は月 176 ドルになるという。独立系労働組合は、月に 177 ドルの最低賃金を要求。去年、一昨年と同額を要求している。現在の賃金は、140 ドル、それにプラスで月々 17 ドルの手当で月、だいたい 157 ドル程度になるのが普通だという。

CCAWD Union 代表の Ath Thorn 氏は、賃金は少なくとも 176 ドル以上であるべきだ、と主張。「必要な出費が月に 176 ドルということは、ある程度の生活レベルを保つためにはそれ以上のお金が必要だということです」と話す。しかし、Garment Manufacturers Association の Kaing Monika さんは、「生活賃金だけを考えればいいのではありません。賃金を適切に検討するためには、国の競争力や、賃上げに伴う失業率アップの可能性なども、考えなくてはなりません」と話した。「最低賃金を上げるのに、反対しているというわけではありません。生産力をあげずに賃上げだけを行うことが、産業を台無しにしてしまう可能性がある、ということです」と話した。労働人権を守るために活動している Moeun Tola 氏は、「昨年行われた民間の調査では、最低賃金は 208 ドルが妥当、という結果がでています。また、現在、裁判にかけられたりして圧力を感じている労働組合関係者が、何人もいます。彼らへの提訴を取りさげること、優先すべきことだと思っています」と話した。

15. 2016 年、地雷による死亡者が去年の 2 倍

カンボジア地雷対策庁の発表によれば、地雷で亡くなった人の数が、今年が半分終わった時点で 2 倍に増えていることがわかった。2015 年同時期は 11 人の死亡者、55 人の負傷者だったが、今年は死亡者が 20 人で負傷者が 29 人である。同庁の Nguon Monoketya さんは、「死亡者が増えたのは、子供が関わっていたからです」と話す。「データを集めてわかったことは、たくさんの子供が兵器や軍用品で遊んでいる、ということです」と話す。死亡者のうち 7 人は子供だ。2015 年は 3 人だった。

地雷が爆発したのは全部で 49 件だったが、うち 71 パーセントが北部にある 5 つの州に集中している。1 番多い 9 件はバンテアイイエンチェイ(死亡者 4 人)、次に 8 件のバタンバン(死亡者 3 人)だ。バタンバンは去年 23 件の爆発があったので、急激に減ったともいえる。地雷撤去 NGO の Halo Trust さんは、「原因は、タイとカンボジアの国境沿いに現在道路が作られていて、その周囲で人々が引越などを始めたことだと思います。この国境沿いの道路は、カンボジアでも最も多くの不発弾が埋まっていると思われます。新たな住処を探す貧しい人々は、地雷の知識もありませんから、探すうちに踏んでしまうのです」、と話した。国境エリアは、1980 年代のカンプチアクロム人民共和国政府の時代に K5 計画が行われた場所だ。K5 計画とは、クメールルージュが再び潜入してこないようにするため、国境にそって地雷を多数埋めた政府の作戦である。

16. バタンバンでバスが炎上、補償金を求める被害者

8/06、リス・モニー運輸サービス社のバスが、走行中に炎上し、1 人が死亡、5 人が怪我をした。被害にあった乗客の何人かは、バタンバン警察に被害届を出しており、そのためバス会社は被害者に対して補償金を支払うこととなった。亡くなった Long Thea さん 42 歳の遺族は、警察にすでに被害届を出しているが、もし会社が相応の補償金を支払うのであれば届けを取り下げる、と話しているという。Thea さんの叔父にあたる Teap Ry さんは「会社の人が葬式に来て 100 万リエル(約 250 ドル)を寄付してくれましたが、今後の対応がどうなるかを待っているところです」、と話した。会社は、国の運輸省から 2013 年に勧告を受けており、交通事故をなくす努力をするか、それができないなら事業をたたむようにと言われていた。被害者の見舞いはまだ済んでいない。リス・モニー社のマネージャー Pang Marin さんは、会社が現在、被害者への補償金を支払うために書類の手続きを行っている最中であることを明らかにした。

17. S-21 でのポケモンプレイ、不謹慎との声

8/09、トゥールスレン博物館では昨日、日が落ちた後にもかかわらず、多くの人がスマートフォン片手に集まって、ポケモン GO をプレイしていた。トゥールスレンは、クメールルージュ時代に約 1 万 4 千人のカンボジア人が拷問・虐殺された場所である。ゲームを開発したアメリカの Niantic 社は、人気のスマートフォンアプリ『ポケモン GO』をカンボジアでも始動。これは、プレイヤーたちが実際に歩いてスポットを訪ね、そこにいるポケモンを捕まえ集めるゲームである。S-21 は昨日の時点で、2 つのポケモンジムと 4 つのポケストップ、そして多数のポケモンが出現するスポットとなっていた。ポケストップのうち一つは、虐殺記念碑の墓の位置とぴったりかぶっている。Niantic 社は、これまでも、ポケモンをプレイするのに不謹慎とされ、各地の関係者からポケモンの削除依頼を多く受けており、たとえば日本の広島にある原爆ドーム、ワシントン DC にあるホロコースト記念博物館などでも、訴えののちポケモンが削除されている。カンボジア人の

入場料は無料であるこの博物館を、記者は昨日訪れた。そして早速、2 人の若者がゲームをしている姿に遭遇。Rain Kun さん 21 歳は、「どうしてここでポケモン GO をすることが問題になるのかわからない。僕は、小さい頃からポケモンが大好きでした。ここに来たのは、ポケモン GO をプレイしたかったからです。ポケモンが出ないのであれば、ここに来ることもなかったでしょう」、と話した。

一方、観光客のフランス人カップルは、ポケモンをここでプレイすることに否定的な意見を述べた。Faiza さんは、衝撃的なことだ、と話し、ボーイフレンドの Edouard さんも、「どうしてここでポケモンをプレイするのか理解できない」と話した。クメールルージュ時代の調査を行っている団体 DC-CAM のディレクター Youk Chhang さんは、博物館がゲームに利用されたことに憤りを感じていると言う。「すぐに削除されるべきです。これは明らかに不適切なものと、若い人たちにも理解して欲しいです」、と話した。Chhaang さんは、「不謹慎だとわからずゲームする若者たちを、責めることはできません。大人たちが教育しなくてはならないことです。私たちの教育不足です。見つけたら、大人は注意すべきです」、と話した。Niantic 社からのコメントは、得られなかった。※その後、11 日付でポケモン GO は禁止、およびジムとスポットも削除された。

以上